

文化庁選定「歴史の道百選」に『坊領道』が追加選定されました！

「大山道」の主要道の一つである「坊領道」が、横手道、川床道について令和元年10月29日に文化庁が選定する「歴史の道百選」に追加されました。「歴史の道百選」とは、全国に残る歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道や運河など交通関係遺跡について、保存と活用を広く国民に呼びかけ顕彰する国の制度で、主に明治時代までに活用された土道や運河が選定されています。「奥の細道」で松尾芭蕉が歩いた「陸奥上街道（岩手県）」や四国霊場巡拝の「四国遍路道」、材木の輸送路として丹波国と京都を結んだ「保津川水運」などもこの度選定を受けています。

「坊領道」は、奈良時代に創建された伯耆国大山寺への参詣道である大山道（横手道・川床道・尾高道・溝口道・坊領道）の一つで、伯耆国大山寺の寺領内であった坊領集落を経由して大山に詣でる大山北麓の南北筋の道の総称です。鳥取藩領の淀江湊や国の重要伝統的建造物群保存地区である所子集落方面、御来屋方面からの道が「坊領道」に合流します。

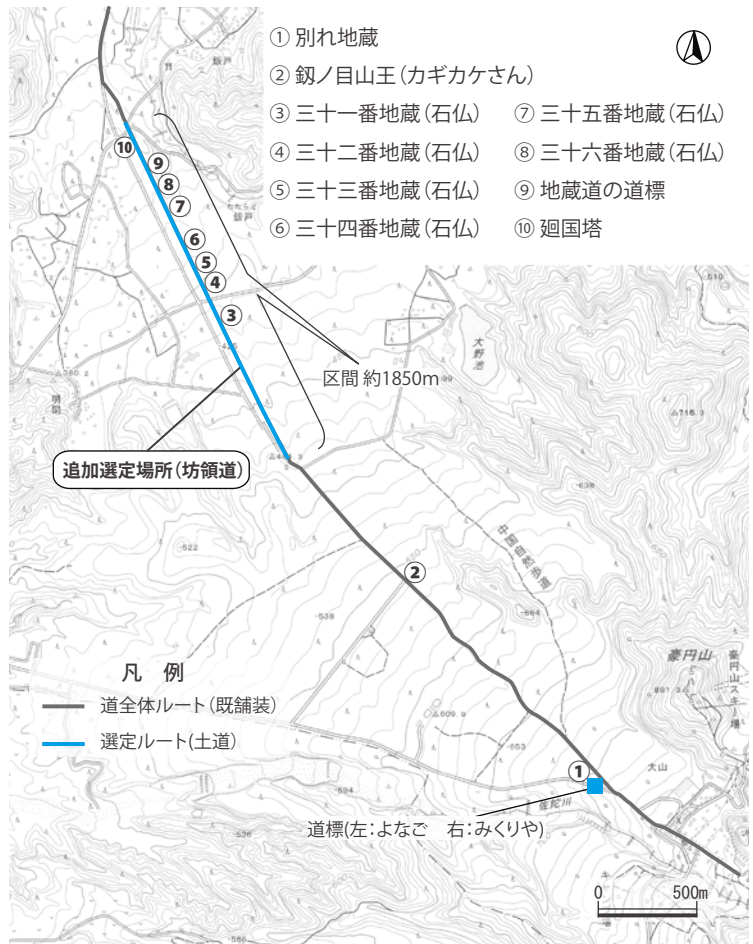
道沿いには、一町地蔵、「地藏道」と彫られた道標が残されているなど、伯耆国大山寺の信仰の中心である地藏信仰の盛行を今なお伝えるとともに、人々が牛馬を引き連れて大山博労座（大山牛馬市）を目指した参詣道でもありました。

今回選定されたのは、種原入口付近から大野池入口までの延長約1,850mで道幅が約2.5m～3mあり、坊領道の中でも特に往時の面影を良く残している箇所です。

（観光課 文化財室）



▲坊領道（大山道）



▲地藏道と記された道標